

投票理由

衆院選（小選挙区）での決選投票制を導入する

賛成：p2－12

反対：p13－17

賛成

死票が減りそうなので
死票を減らす。
この人なら理想的と思える候補が自分の選挙区にいるとは限らない。圧倒的多数の得票を得る候補者がいないなら、上位2名で「どっち(の地獄)がマシか」選べる方がましかも
比例復活はいらない。
選挙において「民意がより正確に反映されること」が最も大切で必要な事と考えますのでお金や手間がかかるなどのデメリットがあっても導入すべきです。
そもそも少数意見が死票になってしまう選挙制度自体が間違っているが、是正に向かうことを期待して賛成にします。
現行制度では死票が多すぎて、民意が正しく反映されていないから
賛成意見の2、4と同意見
投票が面白くなる。
民意を示すチャンスが一回ではなく決戦でもう一度できるから
分散した野党の票がまとまることで、民意が反映される
小選挙区では候補者が多数となり、死票が増加することが想定される。決戦投票制度を導入することによりより多くの有権者の関心を高め、死票を減らす効果が期待できるため
そもそも小選挙区制は二大政党が前提で野党が乱立している日本では政権与党が圧倒的に有利です。野党同士が票を食い合い、野党の票の合計は当選した与党議員よりも多いことが多数あります。小選挙区制は民意を全く反映していません。決戦投票で野党共闘ができ過半数を取れていない政権与党候補者が落選する可能性があることは民意の反映だと思います。総理大臣が好きな時に解散出来る「解散権」は剥奪するべきだと思います。
今の選挙制度がベストとは思えないので、色々試してみてよいと思う。
野党が分立して自民党に有利だから
自民党の独占を排除できる。カルト集団の組織を排除できる。
死票が少なくなり、より民意に近くなる
自分の票を妥協して与党よりはマシな第2党に入れなければならないなら意味が無い 小さくても政策が信じられて信頼出来る党に入れたい 偉そうな事ばかり言って利権ばかり貪る政治家や政党に消えて欲しいから自分の1票を死票にしたくない
民意がより反映される
決選投票制を突きつけて、中選挙区制に選挙制度を戻すきっかけとするため

不正選挙撲滅の為に決戦投票は必要 今のままでは民意が完全に反映されていない 無駄な費用？その為に税金を納めているのです 政府による無駄な税金の使用を辞めさせる為に民意を反映させるのは当然の事 無駄に税金を使用しなければ決戦投票の費用は確保できる
賛成か反対か迷いました。私は化学物質過敏症で家族全員が家から出掛けられない生活を一年半送っている。有害物質である合成洗剤の成分が充満している投票所に二回も出掛けるのは大変な苦痛である。以前は、一回の投票で夫婦ともに一週間数々の不調が起きた。投票所に入れば倒れてしまうかもしれないという命がけの投票…笑。なので本音を言えば、投票率が上がり、きちんとした報道がなされ、SNS の暴走もなく、一度で決まるのがいいから反対したい。しかし、それでも、一つの選挙区に候補者が乱立するような選挙である現状、決戦投票は必要と考える。
相対的にであれ、より正確に民意が反映される。ただし、最終的には小選挙区そのものを廃止したい。
ボルダ方式でもいいけど。
フランスでも実施している見習おうではと思います
議員それぞれの可否を明確にすべき！
誰も得票率 50%を超えない場合は上位 2 者による決戦投票を行うべき。そのほうがより民意が反映される。
得票数で首位だった人物が民意を反映しているとは限らない。一定以上の得票を得た候補者がいれば決選投票をするのは当然。
賛成意見に全て同意し、反対意見には妥当性を見出せない。最も大事なものは、選挙結果に「民意」が正しく反映されることです。先の兵庫県知事選挙では、斎藤元彦が当選したとはいえ得票率は半数を下回っており、民意が正しく反映されたとはいえない。このように、一回だけの投票では民意を正しく捉えられない。決選投票はこの問題を解決できる有効な手段。
例え手間や時間、費用がかかっても選ぶ事の重要性を考えれば死票を減らしより民意に近い結果を得る事になると思います。
小選挙区の当選者は一人。よって投票人の過半数を超えなければ本来の代表者にはなれない。決戦投票によって住民の意見を整理できる。
質問が良くない。現在の衆議院小選挙区制は与党が有利になる仕組みで社会が停滞している大きな原因であるが、その対策として決選投票制は悪くはないがベストではない。優先順位付き投票制が最適だと考えられるが、その場合に賛成・反対のどちらに投票して良いのかわからない。
選挙の費用が大幅にかかる反面、いわゆる「死に票」の割合も大幅に減る。それ以前に、いい加減に小選挙区制を廃止、中選挙区制にしたらどうか？

1 人の当選者しか選出されない小選挙区制度は、国民の価値観の多様化に対応していないと考えます。立候補者が 3 名以上の場合、前回の衆院選においても、決選投票を行えば、私の選挙区でも結果が変わってくるであろうというケースでした。民意をより正確に表すためには、多少のコストがかかるのは仕方がないと思います。我々は、多大な納税をしています。それに相当する制度設計が必要だと考えます。
1 回目と 2 回目の結果が変わることが多いのは重要だと思う。票割れなどで死票となった人の意思を問えるので、1 回目の投票でも多様な候補に票を入れられるようになるかもしれない。
より多くの意見を反映するために、必要と思う
より精度高く民意が反映されるはず
人口減で議員を減らす必要もあり比例復活のような制度を止め、当然一人区が増える。その際に決戦投票制は人となりを確認出来る良い制度であり、議員を減らす事で選挙費用を賄える。
費用がかさんだとしても、民意がより反映されるのなら必要な経費だと思う。
民意が反映されるので有れば
個人的には議会制民主主義という社会制度自体が崩壊しつつあると感じています。議員という職を立て候補生にせず、当番制にしている地域もあると聞いています。ですのであくまで暫定的にはありませんが、大きく偏る危険性が軽減される制度を採用するべきだと考えました。
低投票率なら選挙無効も視野に入れた議論が必要
政権交代がおきないと腐敗するから
小選挙区制の弊害が非常に色濃く現在は出ている。選挙制度自体を、根本から変える必要があると思うが、まずは決選投票でもいいのかもしれないと思う。
有権者の政治参加がより進むと思うので。
賛成側のおっしゃる通り。
これまで数多くの「死票」を投じてきた私の悲しみを想像してみてください (TT)私の票が正当に扱われる日本を見たい！費用など、政党助成金を廃止して捻出すればよい。
今までに無い制度も取り入れるから
民意をより反映できるから。
当選しても自分で掲げたマニフェストもできない議員はいらない。
より国民の意思を反映させる為。選挙により意識を向けさせる。
これは今は導入されていないということは議員にとって都合が悪いからだ 導入すべきである
僅かの票差で決まってしまうのは納得できないから
小選挙区制自体少数意見の排除を促す選挙制度であり寡頭政権の温床となり得るので小選挙区制自体廃止が望ましいが廃止が無理な場合の緊急的救済措置として導入すべき

過半数の得票率を得られない候補がいらない場合、有効かとおもわれます。ただし、比例区復活当選は、この決選投票で敗れた候補に限定すべきかもしれませんね。
死票が減る。極端な主張をする政党やスキャンダルがあった議員が当選しにくくなる。野党の候補者調整が必要なくなる。
死に票をなくすべき。
死に票が減ること、野党が無理な妥協をせずとも独自の主張が可能となることは見逃せないメリットである。手間暇や経費は、「民主主義のコスト」と思料する。
ボルダ式か決選投票制いずれかを導入すればもう少し投票率が上がるのではないかという期待がある
国民の民意が反映されているとは思えない。
小選挙区制度廃止した方が良いです。国民投票ばれていない方が国会議員になる事に反対です。集計機ムサシも反対です。
一位の候補者(多くは自民党)に対して、多数の他党の候補者が乱立して、それらを合計すれば、はるかに一位の候補者を抜く場合がある。しかし、各党の思惑や政策の違いがあり候補者の1本化は難しいので、強制的に1本にしてもらいたい。
現行制度では、とにかく死に票が多すぎる。
小選挙区制の廃止が本筋だと思いますが、次善の策として決選投票に賛成します。
国民の民意を正確に反映するために必要と考える。
小選挙区制は、民意が反映しないと思う！
当座の制度として。小選挙区制の廃止への第1歩ならば支持する。でないなら、選挙費用の増大だけを招くと思う。
より良い政治家を選ぶために小選挙区は投票者の50パーセントを越えた候補者を当選者とするのが良い。
一部地域の多数決で国の議員が決まるのなら最後まで何度でも投票して関心高くする効果が高いと考えられるため。
現在の制度は負の面ばかりが目立っており早急に変更すべきである。中選挙区制に戻すもしくは中選挙区連記制を導入するなどの方法もあるかと。
現行制度よりは良いから。以前のような中選挙区制、もしくはドイツのような選挙制度を望む。
今の小選挙区制は与党である自民党に有利な設計になっていると思う。少しでも、無能な議員を減らし、有能な議員が当選出来るような制度にすべきである。
面倒な選挙制度になってしまうことが心配ですが、死票を減らすことに繋がると思われますので賛成します。
選挙制度が腐ってきている

理由 棄権が多くても当選してしまう今の制度を根本から直してほしい。
それよりも投票率が50%以下の場合は立候補している全員を落選として、再度新しい候補者で選挙するとよい。
手間暇が一番確実な品質向上。20代の頃、月二回の休みに、投票がしんどいと40代の先輩言ったら怒られた。投票の方法は進化している。
宗教票で1票でも多くでっちあげて当選か？気狂い沙汰。
基本的には賛成だが決選投票に対する選挙費用がかかるので「無理」かなと思います。もっとweb投票が普及すればなーと思います。
競争がある
本気の議員さんが選べる
民意の方を優先したほうが良い。
1人しか選べないのが残念に思う事がある。死に票も多く決戦投票ができれば大いに盛り上がると思う。
民意の再確認。
非常に面白い制度、試してみたい
投票者の過半数取れずに当選はおかしいだろ
中選挙区制に戻してもいい！
死に票救済
選挙戦を勝ち抜くためにも政策討論会を導入せよ。
選挙に通るだけが目的の輩を排除したい
少ない得票でも多くの議席を獲得する結果になるから。
有権者の手間をどう軽減できるか次第。
より民意を反映することができると考えます。
二大政党を目指す、と言って小選挙区制になったが、実際はそうならず、死票が多く、少しの票で議員になり「これは民意だ」などと大声でぬかす奴がいます。ウンザリです。
賛成側主張と同意見
これは知りませんでした。死に票、政党の意味不明の乱立も長廻るかも？
選挙に民意を反映させるほうが良いから。
賛成の主張のとおりです
決選投票より中選挙区制への改正を望みます。
今のままでは、良くないことは明らかである。しかし、選挙制度そのもの（小選挙区・比例制度）を、一刻も早く、見直すべきである。

投票率が低くて、獲得票が過半数に及ばないのであれば、決選投票するべきです。それと、投票率が50%以下であれば、その選挙は無効とするべきではないかとも、思います。有権者の半数以上も投票していないのに、民意とは言えないと思います。
「死票」を減らすため
民意を表明する場を増やさないと・・・
小選挙区には過疎地域には無理がある
小選挙区制は死票を大量に発生させ民意を反映しない制度であり、本来は完全比例代表制が望ましい。あくまで小選挙区制を維持するとした場合の、次善の策である。
よく分かりませんが、今の選挙制度がよくない事だけは確かです。変えないと！
お金はかかっても選挙は民主主義の基本
手間がかかっても、やった方がいい
国の行く末を決めるのが選挙であるのだから、金銭の問題ではなく、より民意を反映させることが必要となるので導入すべきである。
問題を起こした議員の対立候補が割れてしまった時に、必要になると考えるとともに、そういう形で選挙が歪められていると感じたことがあったので。
死に票がおおく大政党に有利な、一票の格差が大きい、小選挙区制そのものに反対です。決選投票制で大政党有利を覆せるかもしれません。
よりしっかりと国民の民意が反映されるから。篩に掛けて悪党を落としたい。
死に票がでない、なるほど理に適う考えだから。
死票を減らす意味でも、決選投票すべき。
小選挙区制では死票が多く、過半数の民意が無視されることもある。政党間の事前調整による候補者の一本化も透明性に欠ければ民主主義にとってマイナスになる。決選投票を行えばこれらの問題を解消できる。開票後の決選投票ではコストが嵩むため、候補者に投票順位をつける形にすれば、集計のコストのみに抑えられる。
死票をより防ぐために、決選投票制度を導入しても良いと考える。
二大政党制自体に反対なので、小選挙区制度に賛同しかねるが、小選挙区制度を続けるのであれば、決選投票制を導入し、少なくとも有権者の過半数を制した者を当選者とすれば、死票を減らすことができるし、野党も事前に無理な談合をする必要がなくなる。自民党の総裁選挙などは、党員でなくてもそれなりに興味をもって見るできるので、自分の選挙区の選挙であれば、なおさら興味もてるようになるのではないかと思います。
田子作国民の思考が反映されるから

より民意が反映されやすい。決選投票はもっとシンプルにする方法はないのか考えてみる必要はあるとおもいます。
「民意の反映」に対する補完手段としては賛成。ただし小選挙区制における『死に票』の問題は解決されておらず、多様な意見が反映されにくい問題は解決しているとは思えないので、基本的スタンスとしては中選挙区制に戻すべきである。
野党共闘の実現が難しいため、決選投票はよい方法だと思う。一回目は当選してほしい候補者に入れる。二回目は、絶対に当選してほしくない人でない方に入れる。
日本の政治体制は自民一強だ。この事実だけは誰にも覆せない。これは、野党が長らく集合離散したために自民忌避層の有権者の票がばらけたためでもある。つまり、決選投票がなければ弱小野党が政権を握るような心配をせずに済むということである。つまり、地盤が固い与党にとって決選投票がない今の政治制度は都合がよいのであり、政治の主要アクターを変えることが出来るという政治のダイナミズムを阻害していると言わざるを得ない。
死票が多すぎる
自分の意思を伝える機会が増えるから。
現状国民の意思が反映されてないので、むしろ何で今そうっていないのか不思議に思っています。
フランスに22年滞在しました。その間、この決選投票制を見てとてもいいなと思いました。投票者の意見がより反映されると思います。
選挙に費用がかかっても、無駄な解散をやめて真剣な議論を尽くすようにするべきだと思う。この制度により、市民の政治と選挙への関心が高まることを望みます。
分断がとか、票が割れるとか言はなくて良くなる大變良い制度ではないでせうか。
賛成側の主張の通りだと考えるため。特に野党の連携による決戦投票の行方を見たい。
賛成意見に網羅されていると思います。
死に票が多くなる選挙制度は改めるべき。中選挙区制でも良い。小選挙区で落選しても比例で復活できる制度も止めるべき。
死に票を出来るだけ無くすことと決選投票で盛り上がるので関心も高まり投票率も上がる可能性がある
元に戻した方がいい
対立候補が多数になった場合の死に票をなくすために有効と考え、それを防ぐ他の方法があるならばよいが、今のところそれが分からないので、決選投票制に賛成。
現状は落選者の救済措置となり、おかしいとおもうから
死票が減る可能性がある。
有効得票数の過半数の得票に達する候補者がいなかった場合に実施すべきと考えます。

今の選挙制度は投票しにくい。いろいろ試行錯誤してやってみたらいい。だめならまた変えればいい
本当に決選投票制は全ての地区でやって欲しい。今回も宮城県でれいわと立憲が出馬するそうで、票割れるでしょうって感じで本当がっかり。各々の候補にも選挙は存在感を出すために出馬することは当たり前だと思うけど、この制度がないのは日本国民にとって悲劇だと思います
より民意を反映された候補者の選出が可能となると考える
死に票を少しでも無くすためだから。
比例で復活とかありえないから また、統一協会、創価学会などの介入で票を集めてしまうから普通に選挙に行った人の意思が尊重されるから
一票の重みをより重視するため。
比例代表が無くなれば大賛成。小選挙区制で落選したのに気が付けば復活当選している制度が納得行かない。
有権者の過半数の支持を確認するべきである。過半数側の選択責任の意識も醸成出来るのでは、と、考える。
生きた結果を生み出せる。
人物
現在のような政党乱立では死に票が多く民意が反映されにくい。
極左政党に政権が移ってしまうことは阻止するべきである。
得票差の接近度合い（僅差）による条件付きでの決選投票制等を検討すれば良いと思う。
死に票を減らせる。
小選挙区は民意が反映されなさ過ぎて、民主主義に反しています。せめて決選投票制を導入すべき。民主主義にお金を使うのは、民主主義国として当然。ここでお金をけちる理由はありません。
反対派の意見である「2大政党制に向かわせる」ことは、民主主義の敗北であり、断じて容認できない。現状の小選挙区制度には死票の問題や1票の格差問題など課題は山積しており、決選投票だけでなく、例えば反対派の挙げていたボルダ方式や最高裁判事に対して行われる国民審査のように、信任しない者に×をつける、などといった複数の方式を導入したり、その中でより良い制度を作成することが望まれる。小選挙区制は資金力のある政党ほど有利であるのも見過ごせない。金権政治を促進する装置であり、そもそも中選挙区の廃止、小選挙区の導入の背景にあった裏事情を鑑みるに、国政において主権者国民が最大限権利を行使できる選挙という非常に重要な場を歪めている小選挙区制自体の抜本的な改革抜きには、カネと政治の悪辣な問題に対して引導を渡すことはできないと考える。
民意をより反映できると考える。
決選投票により民意がより反映されるという意見に納得です。
一定程度の差がなければ、決選投票導入は検討してもよいと思う

多数決をする場合、候補が多ければ投票回数が複数回になるのは、わりと普通ではないでしょうか。政治家を選ぶというのはコストをかけるに値すると思います。
フランスの例をみたから
組織票の強い政党候補者が有利ともいえず、取り入れても良い制度である。衆議院選挙の首相の解散権を奪う制度設計も取り入れて欲しい
そもそも投票率が5割を切るような状況の中、最多得票の候補者がすんなりと当選するやり方に違和感がある。せめて決選投票を行うべき
ポピュリズムへの歯止め
小選挙区で落選しているにも関わらず、比例復活はあり得ない考えるから。
有権者の半数以上の得票がなければ信任を受けたことにならないから
死票を減らさない则有権者の投票意欲がますます下がると思うから。とりあえず急ぎ導入するべき。
野党の仲が悪すぎる。それが自民に有利に働く 小選挙区制では死票多すぎ
死に票を減らせる
小選挙区は1人を選ぶので、非与党でまとまらなないと政権交代には繋がりません。上位2名の決戦投票なら非与党の分かれた票をまとめることが可能。与党に""ノー""を突きつけられやすくなります。
現状の投票制では、余りにも欠陥議員が多い為。
小選挙区制の弊害と足され多数の死に票が救済されること。
どちらかと言えば賛成。
1位当選した候補者の得票数よりも、2位と3位の得票数の合計が多い場合は決戦投票が必要。お金をかけてでも、有権者の意思を正確に汲む選挙であるべき。
田舎では選びたい人がいない、どうせ自民が勝つと思っていかないため
既存の選挙制度では死票が多くなり、民意が十分に反映されていない。野党調整がうまくいくことが期待できない上に、背後での連立模索が見受けられる。民意を簡単に裏切らせない。小手先の選挙対策をさせない。有権者への裏切り対策が少ない中、数少ない有効策と考えられるだけに、この制度は実現して頂きたい。多少費用が多くなっても、有効得票数の半数を超えていない場合には、決選投票を実施すべきだと思います。
現状、議員にふさわしくない方々がおこぼれで議員となっている現状と思います。費用がかかるといわれますが、無駄な解散をやめてればいいだけです
小選挙区制の欠陥が指摘されながらも、長く続いている。この制度で少しはよくなると思う。小選挙区制そのものをなくしてほしい。
賛成の参考意見の3が賛成理由です。SNSの影響や感情に流されず歯止めをかける制度また、有権者が熟慮する時間が必要と思う。

現行の小選挙区制度については課題が多く根本的には選挙制度自体の見直しが必要と考えています。その次善の策として今の制度を前提とするならば決選投票方式がベターと考えるから。
確信がもてないが今の制度をいったん見直す必要があると思う
たとえ今の選挙方式よりお金や人員などが増えてもやるべきだと思います。理由は、一度投票した（投票した候補者が決戦投票に残った場合）候補に本当に一票を投じてよかったのかを今一度考えて投票する機会になる。そして残らなかった候補の人達に投票した人達も、残らなかった候補が残った人達にどのような行動をとるか見ることが出来て次の選挙の投票行動の参考にしたり、自分が決選投票に残った候補の誰に一票を投じるのかしっかりと考える時間が確保できるから。
死票が減り、有権者の効力感を増す効果もある。「ボルダ方式」を初めて知ったが、それも国民的議論に加えたい。
より多くの民意を反映させるために。
本当の意見は、昔の中選挙区制度に戻すのが良いと思います。
現行では、死に票が多く成りすぎる。故に、全体での得票数以上に議席を得られてしまう
1回だけの投票では死に票が多数発生するが、決選投票を行うことによって死に票をなくすことができます。これは市民の政治参加拡大につながるので、導入すべきです。
「賛成」としましたが、費用・手間などがかかり過ぎるのでは。投票率が50%超程度では何らかの手立てはしないとは思いますが。提示されていましたが「ボルダー方式」は良いのかもしれませんが。メリット、デメリットはあるようですが。選挙の方法を変えるのはいろいろと問題はあるかもしれませんが。
反対意見を見ると大きなデメリットはコスト面ぐらいだったので、決選投票になる地域はそんなに多くないだろうという予想から、許容範囲内のコストになるのではないかと思った。ただ、ボルダ方式も気になる。
野党という1つの政党が出来ない限りは、与党に容易に勝つことが出来ず、多くの死票が生じてしまう。小選挙区で1名しか当選しない以上、現状の選挙は好ましくない。決戦投票で1：1の対決を行い当選者を決めることはとても好ましい方法と思う。
トップの票が僅差の場合、賛成です。選挙に関していい意味で意識が変わると思います
組織票で決まる選挙にはもうウンザリ。完全ではないにしても、決選投票制の方がより民意を反映できるはず。
決選投票制の一般化について、私も含め、（その効果が）良く分かっていない人が多いと思う。既得権益を死守せんとする特定集団の、悪意ある組織票により、多くの国民が不利益を被る場合も考えられる。その一方、投票（死票）については、無駄にされたくない考えもあり、正直決め切れないが、あえてどちらを採るかと問われれば、とりあえず「賛成」とさせていただく。

今の有権者の意識なら心配だか、ダイナミックさが、あれば意識も変わるか
そのほうが今よりは良くなると考えるから。ただし、もっと民意を反映しやすく、コストも低い方式が他にもあれば、そちらも選択肢に入れて議論されてほしいと思う。個人的にはボルダ方式も良いと思った。皆が選挙結果に納得することのできる選挙制度になってほしい。
本当は決戦投票ではなく、最初から、5.3.1 点の候補者を選択できる方法がよいです。
現状の小選挙区比例代表並立制は弊害が大きすぎる。その弊害を解決する有力な方法として、決選投票がある。コストは増えるが、増えるだけの意義が認められる。

反対

小選挙区制では人口の偏りによって、不公平感が出るので、全国制で、勝たせたい議員を投票するほうが民意が反映される。
あまりにもお金がかかり過ぎる
今の投票率だと決戦投票制が良いとは思えないから。1回の投票のまま、ボルダ制など他の制度の導入を検討すべき
お金がかかりすぎる 税金の無駄使い
そもそも小選挙区制度自体が違憲。憲法の趣旨にのっとり民意を正確に反映させるためには大選挙区制度しかない。
極右の事しか書かれてなかったので今日本が直面している問題は極左もしくは売国政治です 左有利になりそうで怖い
時間とお金がかかるため
コストがかかる。コストに見合う価値はない。
ボルダ式導入が最も合理的
小選挙区制のままでの決選投票制は投票率はむしろ下がると思う。まずは中選挙区制に戻すべき！
税金の無駄遣いになりそうだから
賛成に近い反対。ボルダ方式などのやり方を試すのが先決
衆議院議員選挙の小選挙区制そのものに反対。決選投票の制度だけでは問題解決にならない。2大政党制など、幻想。
費用がかかる。
コストがかかり過ぎると感じる
権力によって悪用・不正利用される危険がある。まして大多数の国民が政治的関心も低く教育・育成されている現状では一層危険である。
決戦投票より、小選挙区制の改善の方が先。世襲議員の選挙地盤引き継ぎ禁止とか他に改善すべき事は多い。
小選挙区制になっても二大政党制にはならなかった。以前の中選挙区制に近い形にする方が良い。
すみません。反対になっていますが、どちらでも有りません。(1度クリックすると、取り消せないんですね。)理由⇒そもそも、小選挙区、制度には反対です。
中選挙区制に戻して一人2票を投じられるようにするべき。
そもそも議員が多すぎる。経費がかかる
これについては良く分からない

数の力で押し切れそう。さらに今回の参議院選挙の和歌山。維新と一本化する立憲にはあきらめました。維新の候補犯罪者ですよ
投票行為に重きを置くのではなく、政策の選別に重きを置くべきではないかと考えるため。決戦投票ではなく、政策討論会に最低半年は掛け 回数は5回以上行うべきではないか。
組織力があるところ結局最後は勝つと思うから。昔の中選挙区に戻すべきと思う。
議員としての資質がない人物や維新のような犯罪歴があったり、政治を任すことなどとうていできない人間が、この制度があることで議員になってしまうことは断じて許せない
小選挙区制は衆議院だけではなく参議院にも存在するので、衆議院のみを対象とする案には反対する。決選投票をする場合の具体的な条件が不明確なので反対する。中選挙区制度や比例代表制度にすることでも死に票をへらすことはできるので反対する。政権交代のときは投票率が高いときに起きている。大事なことは投票率をあげ棄権票という死んだ票を減らすことであるが、選挙が有権者の福利を増進するという実感に乏しいかぎり投票率は上がらず、決戦投票で棄権票を減らすことはできないので反対する。
手間と時間がかかるのではないかと思います。ただし今まで考えた事のないテーマなので自信を持っての回答ではない
フランスのニュースを見て違和感があったから。まずは比例復活をやめてもらいたい。政党政治は理解できるが、選挙区選出と比例選出の間で何らかの軽重をつけてもらいたい。給料や副大臣等役職への制限でもいいしね。あとは世襲は異なる選挙区しか認めないというのも必要だと思います。
そもそも参院選は比例だけでも良いと思います。人気者投票は衆議院だけで良いと思います。政党同士のガチな選挙がいいなあ。
選挙に何度も行くのが面倒。
コストと手間 小選挙区制で落選して比例代表で当選なダニも、問題がある。中選挙区制に戻すべき
金の無駄
金がかかる。今の低投票率と政治への無関心な人が多い状況では、そのような制度を作っても期待する結果は望めないと思うから。
決戦投票は小選挙区制を了とすることどで問題の解決ではない。小選挙区制を止めることこそ必要なことだ。
現状の投票率を考慮しても二度投票に向かう人がどれだけいるか疑問。投票率を上げることを考えた方がよいと思う。
選挙の方法を替え多額の税金がかからないようにすれば検討の余地あり
小選挙区制度を改めることが先決と思うから
小選挙区制自体を見直すべき。⇒たとえば、中選挙区にすべき。

気持ち的には決選投票に興味はある。しかしながら、経費の問題はそう簡単に無視はできない。準ボルダ方式(?)でせめて2番目あるいは3番目まで選べるようになれば「投票」する意義と責任をもっと感じることができると思う。
そもそも小選挙区制に反対。
投票率が低いのに2回も投票に行くか疑問。当選させたい人と、落選させたい人を一回の投票で選べて下さい。
日程及びコストがかかりすぎる。開票作業に手間はかかるかもしれないが、優先順位も追記すれば一度ですむ。
これからも野党の結束が難しいだろうし、投票率の向上が先だと考えます。しかも、公平公正とやらの、もっともらしい縛りから教育、マスメディアを解くべきでしょう。
小選挙区制自体やめるべき。中選挙区制に戻すべき。小選挙区制が自民党のような政党を生きながらえさせてきた。
少数派が救われないので
中選挙区に戻すべきだ。
単純で効率よい選挙方式が良い
コストがかかることが最大の反対理由。そのかわり、上位3人の優先順位付け一回投票に修正することを望む。
ボルダ方式でいいと思うが、何人選んだかで得点は変更した方がいいと思う。
選挙制度改革は必要だと思いますが、衆議院小選挙区での決選投票制には反対です。1つの選挙で2回の投票は費用がかかりすぎるだけでなく、有権者にとっても負担が大きいと感じます。衆議院は小選挙区ではなく以前の中選挙区制くらいがよろしいかと思います。
政権交代ができない。
そもそも、小選挙区制自体に反対である。多様な意見が存在するのに一つの選挙区から1名のみが当選することは現実にはそぐわない。比例代表制で多くの国民の意見を取り入れた上で、問題ごとに、異なる政党の組み合わせで政策決定をした方が、国民のニーズに即した政治が行われると考える。
決選投票ではなく、投票時第三希望まで記入し投票。名簿第一が3位以下になれば死に票とせず、第二希望への投票を認め、それでも該当者が存在しなければ、第3希望まで拾い限りなく死に票をなくす。この人とは思ひ投票し、叶わなくても意思表示の機会を奪ってはいけない。
お金（税金）がかかりすぎ。
ボルダ方式にすべき
小選挙区で落選したのに復活する。
あまりにも費用がかかりすぎるのが難点。ボルダ方式などで良いと思う。

決戦投票までに情報戦で惑わされて正しい判断できなくなる可能性あり。やはり 1 回の投票で決めるべき
決選投票制をするメリットがない。
費用の無駄使い。1 回の投票で順位ポイントを争えば十分
投票率を上げる方が先決だと思う。
現在のような投票率や国民の政治参加が低い状況で機能するか疑問
死票が多く出やすいのが小選挙区制の欠点、主権者の意思を選挙結果に反映するならば中選挙区制、例えば全国一律 3 人区で複数投票可（定数まで）にする方が有効
小選挙区制そのものが違憲性が高く、決選投票制導入でその根本的矛盾を覆い隠し、延命に手を貸すことにつながりかねない
お金がかかることをこれ以上してほしくない。選挙制度を見直せばいいと思う
小選挙区制そのものに反対である。決戦投票で死票が生かされるかのようにいうが、死票になることには違いない。小選挙区制はやめ、中選挙区制とか比例代表制に転換するべきである。
手間がかかる。昔のような中選挙区制の方が良い。
それより中選挙区に戻すなどしてほしい。当選者 1 人だけだと次点以下がみんな落選して死に票が多すぎる。SNS でそのときだけバズった公共心のない人が当選して、社民みたいな本来まともなポジションの人を落とすなど本当にもったいないので、小選挙区制いいかげんなんとかしてほしい。野党がカオスな現状で、2 大政党制がいいかはかなり疑問。
小選挙区制度に反対
コストがかかりすぎると思います。また、小選挙区制そのものに反対です。以前行っていた中選挙区制の方が良いと思います。
この制度を取り入れた際の、メリットとデメリットのどちらが大きいかの判断できなかったから
そもそも二大政党制にすべきではないと考えています。現在のような少数与党が健全な形だと思います。(現在の国会が健全であるかどうかは別問題。)マイノリティの意見を掬うためにも、決選投票制には反対します。
これは本当はよく分からない。2 回も選挙が続くと投票所に行くのに負担がかかる人がいるし、行かなくなる人もいそうです。もっと違う制度が必要かなと思う。
・時間、費用……などがかって、全くベターだと思わない（余談）首長選では有効かなと思います。漁夫の利での当選などは民意を反映していなかったり…… 私は、（衆議院も、参議院も）#比例代表制だけに が【最優先】と考えています。（衆議院）小選挙区選挙は廃止 （参議院）選挙区選挙は廃止 憲法 43 条① 両議院は、全国民を代表する…にもかうのでは。 #比例代表制だけに は、一石十鳥以上 衆議院について考えてみると まず、なくなる(不要になる)こと…… ① 1 票の

格差 ②死に票 ③世襲 ④比例復活 ⑤小選挙区の候補者調整 ⑥略称（投票用紙は政党名の記号式投票（+α）に。無効票も減る。）⑦同じ略称による得票案分 ⑧選挙カー ⑨個人のポスター、ビラ（証紙、貼り）⑩選挙ポスター掲示板 ⑧⑨⑩…などは、選挙公報誌、普段の国会中継（本会議、予算委員会など、だけでなく）に また、党首(代表者)討論を その他 ○多様な議員が誕生する ○権力が分散される（自民党も、立憲民主党も2つ3つに分かれて…）○供託金は300万円 もっと安く？ ○選挙費用も安くなる ○政策を選ぶ選挙になり、有権者が投票しやすくなる（投票率アップ）○正確に民意が反映される（〔4〕から追加）

元々、少数野党がまとまるか、あるいは政策協議で候補者の立候補を調整すべきことであり、バラバラな野党候補を絞り込んだところで、野党がまとまるとは考えられません。野党は自己主張の強さを政治理念と考えているかもしれませんが、結果的にいつも漁夫の利を与え続けている野党に期待はできません。